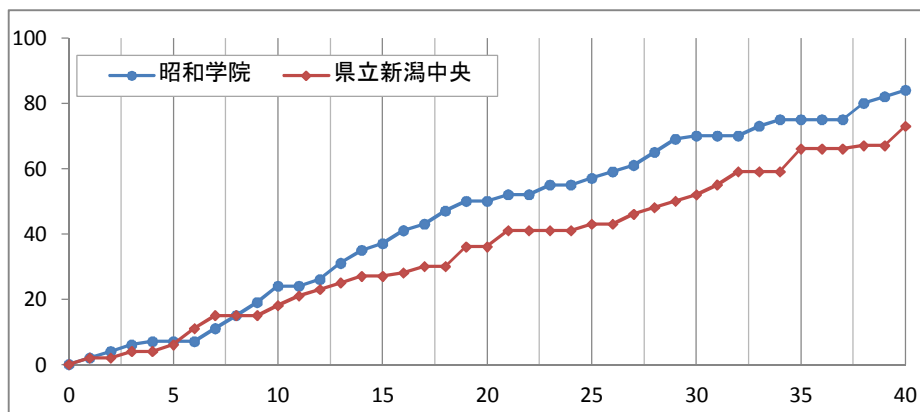


平成25年度全国高等学校総合体育大会バスケットボール競技 第66回全国高等学校バスケットボール選手権大会

女子 2回戦	昭和学院 84	24 - 18 26 - 18 20 - 16 14 - 21 —	73 県立新潟中央
主審 武内 克行	(千葉) ○		● (新潟)
副審 柿原 実			

No. 30h2 日時: 2013年7月30日(火) 11:40 会場: ダイハツ九州アリーナ



昭和学院

No.	選手氏名	得点	3P	2P	FT	F
4	木村 優子	0	0	0	0	0
5	川原 明香里	0	0	0	0	0
6	渡部 友里奈	2	0	0	2	0
7	* 村岡 美英	13	1	5	0	1
8	* 小山 真実	17	1	7	0	4
9	* 田口 明佳莉 (C)	12	1	3	3	2
10	稲垣 世羅	—	—	—	—	—
11	北條 彩佳	—	—	—	—	—
12	* 赤穂 さくら	31	0	12	7	2
13	小野尾 梨紗	—	—	—	—	—
14	* 山本 由真	9	1	3	0	3
15	中村 美羽	0	0	0	0	0
コーチ	鈴木 親光					
合計		84	4	30	12	12

県立新潟中央

No.	選手氏名	得点	3P	2P	FT	F
4	* 田代 桐花 (C)	7	1	2	0	5
5	* 本間 由莉	6	0	2	2	1
6	* 伊藤 真歩	3	1	0	0	0
7	岡村 侑芽	—	—	—	—	—
8	田邊 明	—	—	—	—	—
9	本田 里佳子	8	0	1	6	0
10	亀貝 麻莉	9	1	3	0	3
11	小野澤 亜紀	0	0	0	0	2
12	* 内山 亜美	14	2	3	2	2
13	* 山澤 恵	26	2	9	2	3
14	中澤 知彩	0	0	0	0	1
15	小田 彩夏	—	—	—	—	—
コーチ	小竹 啓之					
合計		73	7	20	12	17

*…スターター (C)…キャプテン 3P…3点シュート 2P…2点シュート FT…フリースロー F…ファウル

戦評

第1ピリオド、両チームマンツーマンスタート。昭和学院は#12のインサイドワークが冴え、得点を重ねる。一方、新潟中央は#13の攻守にわたるプレーで対抗。初戦で硬さが見える昭和学院のターンオーバーが続き、新潟中央に13-7でリードを許す。ここで昭和学院タイムアウト。昭和学院は#8、#12の連続ポイントで試合を振り出しに戻し、さらに22-15で逆転する。新潟中央も#10の3pで応戦、このピリオド24-18とする。

第2ピリオド、新潟中央はゾーンを敷きインサイドを封じにかかるが、昭和学院も#9、#8の外角シュートが決まり始め突き放しにかかる。しかし、新潟中央も#10の3pで応戦。攻めの手掛かりが掴めずタイムアウトを請求。両チーム選手交代で主導権を握ろうとするが昭和学院#9の落ち着いたゲームコントロールでリードを広げ10点差とされたところで新潟中央タイムアウト。その後も昭和学院は#8、#7のミドルシュートなどで加点、一方、新潟中央も#13、#10の得点で流れを戻そうとするも、昭和学院が着実にリードを広げ、50-36で折り返す。

第3ピリオド新潟中央#13の連続ゴールで反撃を開始。ゾーンを組みリング下を固め、昭和学院の焦りを誘う作戦が功を奏し、ミスを連発するが、新潟中央も昭和学院の固い守りを崩せず膠着状態が続く。残り2分、昭和学院57-43となったところで昭和学院がタイムアウトを請求。本来の動きを取り戻した昭和学院は#9、#8の連続シュートが決まり、70-52と18点差をつけ、最終ピリオドへ。

第4ピリオド新潟中央は#13ゴールなどで必至の反撃を開始、追い上げを図り13点差まで詰め寄る。ここで昭和学院は疲れの見え始めた#12に替え、#15を投入。残り6分新潟中央はタイムアウトを請求。#12のレイアップ#4の3pで食い下がり、9点差とする。しかし、昭和学院センター陣の必要なリング下の攻撃に新潟中央攻守の要の#4が無念の退場となる。それでもフルコートマンツーマンで必至に挑むも、終始リング下を制した昭和学院が11点差で軍配が上がった。しかしながら、新潟中央の闘志溢れるプレーは多くの観客を魅了し見事だった。

記載者 三ツ廣 荘規 (所属) 大分県バスケットボール協会